

ダルニーフォーラム

第二十六号

2018年3月

www.edfthai.org/jp

こんな子どもたちが皆様からの「ご支援」を待っています



ナコンパノム県バーンナーディー小学校6年生
スパウィター・ホンサーウォンさん(12歳、愛称バイヨック、左手)

2018年度進学の子どもたちへの募金は、2018年5月31日まで行っています。恵まれない子どもたちに、教育を通して、夢を待つことの出来る機会を与え、将来、この子供達が、タイの社会を支える良い大人になっていくために、皆様からのご支援をお願いします。今号のダルニーフォーラムでは何千人のうちの一例として奨学金申請者の「バイヨックちゃん」の話をご紹介します。

バイヨックさんの家族は両親と3人兄妹です。姉は結婚して家を離れました。兄は外見は健常者と同じですが、脳に障害があります。甥が同じ学校の幼稚園に通っています。家族が貧しいのは、両親の仕事が不安定だからです。家計の中心となる父親は日雇いの仕事をしています。建築や他の仕事、何でも引き受けていますが、収入は1日わずか300バーツです。外で仕事のない日は畑仕事や子供の世話をします。収入が少なく、家計は赤字です。母親はレストランで掃除の仕事をして家計を支えています。

バイヨックさんは勉強熱心、謙虚な子で、先生、友達みんなに好かれています。毎朝6時に起床して、食事の支度、家の掃除、食器洗い、兄の食事の世話をして母親を手伝います。それから身支度をして7時頃に学校へ出発します。以前は学校が用意する奨学生向けの朝食を食べていましたが、2017年から財団の朝食支援対象が別の団体へ移ったため、バイヨックさんは現在、マリーゴールドの花を栽培、販売して朝食代を工面しています。花の販売で得たお金は学校で必要な他の費用にも使います。

バイヨックさんは料理かお菓子を作るシェフになる夢があります。学校で行われる体験学習の時間に興味があり、大好きです。先生が料理やお菓子の作り方を教えてくれるからです。先生はバイヨックさんをリーダーに選び、農作物を材料に、バナナのお菓子や塩漬け卵を作ります。学校で体験した後は家族に作ってあげます。将来は料理かお菓子作りで収入を得て、調理学校に進学するために使いたいと考えています。その後は自分の店を持ち、シェフになりたいと先生に話しています。両親も進学に賛成です。

奨学金担当のストスワート・トンヨット先生の話によると、奨学金は奨学生にとって大変貴重です。大半の生徒は貧困や家族の離婚の問題があります。両親は県外に出稼ぎに行き、子供たちは祖父母と暮らしています。政府が学校へ支給する奨学金には限りがあるため不十分で、その殆どが学用品の形で支給されます。特にバイヨックさんの家庭は貧しいですが、彼女は勉強熱心で忍耐強く、劣等感を感じた事なく、逆にこれを力に変えて頑張っています。空き時間や土日は母親の手伝いをしたり、近所の女性の白髪を抜く仕事をします。彼女が貧しいのを知っているので、毎回20～50バーツを支払ってくれます。彼女はそれを学費の足しにしています。

将来、自分自身をさらに高めていくために学ぶ機会を、このような子どもに提供できるよう、皆さんからも是非周りの方々にお伝えいただけますようお願い致します。今年度もよろしくお願い申し上げます。

中学卒業までのご支援、どうも有り難うございました。

EDFを通して皆様から奨学金をもらい、今年3月に卒業する学生は2,766人もいます。多くの学生は高校・専門学校への進学を諦め、家庭を支えるためにこの時点で学校生活を修了し、仕事を始めます。今回自分の奨学金提供者に、卒業にあたり便りを書いた学生の文章を抜粋してご紹介します。ご一読いただきたいと思います。

① オンブラーニー・センスリー(ニックネーム: ナーン)

15歳、ナコンパノム県



このような奨学金を受ける機会に恵まれたことを、私は大変うれしくありがたく感じております。私は頂いた教育資金を大事に倏約に努め、家族の負担を和らげるように気をつけて使っています。現在は3人、母と兄と私です。母に関しては、元気をなくし病弱な状態が続いています。それでも母は、建設作業員として他県に赴かねばなりません。生活費、養育費のため何とかしなくてはならな

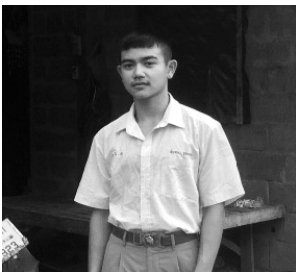
かったと思いますので、私は学校の合間に稲刈りの手伝いやタピオカ芋の運搬などに雇われて少なからず賃金を得、ちょっとだけでも母の重荷を助けようと思いました。

兄は中学3年を終えてから、母と共に遠くの県で建設作業員として働きに行きました。兄が働きに行って一年ほど経った時、母が脚に痺れが出て歩行困難を来し仕事を続けられなくなって静養するため家に帰って来ました。兄はひとり遠い仕事場に残されたわけです。私が学校に行っている間、母は家事を何とか細々とこなしていますし、隣にいる伯母伯父に頼って面倒を見て貰っています。

将来に向けての望みは、会計・商業をしっかり勉強したいということです。収入のちゃんとした安定した職業に就けると考えるからです。そうして家もちゃんと完成させて母の容態もよくしたいのです。今日に至るまで私はご支援の奨学金を受けることによって、皆様からやる気を頂いて来たと感じています。ですから私は自分にできる限りの努力をして最大の結果を出せるように一所懸命やりぬくと、皆さまそして自分自身に約束します。

② チャイチャナ・チュンラウ(ニックネーム: アート)

15歳、ナコンパノム県



現在ずっと学んできた中学課程前期を修了するところです。僕は援助して下さる方からの奨学金を受け、そのお金を、最大限気をつけて勉強に関することに大事に使ってきました。たとえ金額が十分でなくとも大いに助かるものでした。今は祖母と暮らしています。僕の家族はたった3人です。祖母と父と僕です。

父が家から遠く離れて、きつくて疲れる仕事に就いているため、父の顔は1年に1〜2回しか見られません。時々とても会いたくなります。でも祖母は、お父さんが稼ぎのために仕事に行くのは、まさにあなたのためなんだよいつも言います。僕はそれでちょっと気持ちを落ち着かせます。時には父は少ししか賃金を貰えず、そんな時は祖母の年金にさえ頼ることになってしまいます。

土曜日曜の休み、または学校休暇中で時間がある時に、稲刈りやタピオカ芋の掘り起し草刈りなど僕は集落で雇われ仕事をします。僕も家計を支えているんだと毎回誇らしく思うのです。

僕には、将来は安定した職業であることから公務員として教職に就きたいという夢がありました。もし僕が希望の職業を目指して通常の進学コースで大学まで進むとすれば、とても多くの費用が掛かります。とはいえ僕はせめて職業高校卒業資格を得るまでは学び続けたいのです。

ですが父が大変すぎると思うなら、僕はまず学校を出て働いて学費を何とかし、それから再度学業に戻る道も考えています。もしも奨学金支援を受けられないとしても、僕は持てる限り最大の力を尽くして頑張ります。

「クリスマス・お正月・中国正月」のプレゼントキャンペーンの報告

2017年11月から2018年1月31日まで「クリスマス・お正月・中国正月」のプレゼントキャンペーンを実施しました。たくさんの皆様にご参加いただき誠にありがとうございました。今回のご協力で下記のプレゼントをお届けすることができましたのでご報告致します。

- | | |
|----------|-------------------|
| ・ 文房具セット | 72セット (36,000パーツ) |
| ・ 日用品バック | 34セット (34,000パーツ) |
| ・ 自転車 | 32台 (64,000パーツ) |
| ・ 特別な奨学金 | 65,500パーツ |

合計 199,500パーツ

彼らに素晴らしい・嬉しいクリスマスやお正月を贈って戴いた支援者の皆様に農村部の子どもたちに代わり、改めて感謝申し上げます。



2018年1月22日
日本航空株式会社 (Japan Airlines Co., Ltd.) 西南アジア地区代表バンコク支社長の森本 齊様 (左手) より、「JAL Mileage Bank Charity Golf」コンペにより集められた16,640パーツのご寄付をいただきました。この寄付金は、ダル

ニー奨学金制度に対し、今年は5年目の支援金となります。



2018年1月10日
タイ福岡県人会 会長の岡本 貞明様より、30,060 パーツのご寄付金を戴きました。この暖かいご支援は福岡県人会の皆様によるゴルフコンペで集められたものです。これは今年の5月から始まる2018年度に中学校に進学す

る子どもたちに奨学金として提供されます。